

第3回 鶴岡市立荘内看護専門学校 基本構想策定委員会 会議概要

○日 時 令和3年1月28日(木)午後3時～午後4時30分

○会 場 鶴岡市立荘内病院 3階講堂

○出席委員 貝沼浩則委員 福原晶子委員 山木知也委員 山口朗委員

○リモート参加 前田邦彦委員 秋山美紀委員 井上栄子委員

○幹 事 病院事業管理者 院長兼学校長 副院長兼看護部長 事務部長 企画部長
健康福祉部長(兼) 地域包括ケア推進監 荘内看護専門学校教務主査

○事務局 事務局員 9名

○傍聴者人数 6名

(午後3時開会)

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議

(1) 前回委員会の意見集約と対応について(資料1)

- ・教育理念について
- ・新学校の特徴について

事務局

——— 資料説明 ———

委員

- ・「時代の要請に基づいた快適な学習環境」の所だが、たとえば、国でも、看護師等養成所におけるICT等の整備事業ということで、来年度あたりから始めるというような情報もあるので、インターネット回線への接続を可能とするモバイルのWi-Fiルーターや双方向で送受信を行うためのソフトウェアなどの購入など今後考えてもらえれば良いと思う。
- ・シミュレーションラボの設置となると一部屋きちんと確保しておかないと、事業を実施するときは大変かと思う。

委員

- ・新学校の特徴は、志願者から見て魅力的な内容を見出しに打ち出す必要があると思う。
- ・特徴として三項目が並んだときに気になったのは、1つ目だけ「教育」という言葉を使っており、残る2つは「学習」となっていること。教育と学習というのは特に区別して意識して使っているのか。ここでいう教育は「学びの支援」といった意味合いかと思う。学生の立場から見れば手厚く学びを支援してくれるという言葉のニュアンスのほうが、教育という少し上からの目線よりは響くと思う。
- ・3つ目の「時代の要請に基づいた快適な学習環境」の、要請に基づくという表現は、受け身な印象を受けた。学生の目線に立つとおそらく「時代の先端に行く、快適な、充実した学習環境」、などと言われると行ってみたいと思うのでないか。時代の先端に行く、というのは言い過ぎかなという皆さんのご遠慮もあったのかと思うが、何故「要請に基づいた」と変更されたのかというあたりお伺いしたい。

事務局

- ・学習支援の表現については、他の委員の皆様方からの意見も含めて参考にさせていただきたい。時代の要請に基づいた、という点についても、ご意見に基づき調整していきたい。

委員

- ・確かに、教育という上から目線のような、押し付けるような形にはなるかと思う。
- ・学校の特徴を、どこからの目線か、統一したほうがいい。学生の目線からの特徴なのか、それともその学校を一般的に見た時の特徴なのかということに合わせて全体を統一させればよいと思う。

委員

- ・学生の目線に立ったというのは非常に大事なことだが、学校なので、必ずしも学生の目線だけの立場ではないと思う。確かにどの立場に立つのか統一することは大事かもしれないが、教育を、という点をあえて変えなくてもよいのでないか。
- ・時代の要請に基づいた、というところも、元の案で、あえて変えなくても、時代に合った、快適なというもので充分である。シミュレーションラボの設置など、と具体的なものも入ったことは、分かりやすくなっている。

委員長

- ・今日が最終の委員会であるので、今後の修正については、事務局と私の方で調整することに対し、ご一任いただきたい。

委員

- ・今回シミュレーションラボというのが出ているが、本日の委員会の中でディスカッションされるのか。

事務局

- ・後程施設整備のところで説明があり、ご意見頂戴したい。

委員長

- ・ここまでの協議については、ペンディング（保留）としていた部分であるが、この委員会としては資料のとおり進めるとのこととする。
- ・新学校の修学年限と学年定員について
- ・資料 2-1、2-2

事務局

——— 資料説明 ———

委員

- ・高等教育修学支援新制度については、住民税非課税世帯等が対象ということだが、荘内看護専門学校で今年度該当している方の割合はどれ位か。

幹事

- ・修学支援新制度に該当している学生は、全学年 60 人の収容定員で 6 人いる。

委員

- ・1 割の方はこういったニーズがあると理解した。

委員

- ・1 学年の定員を 30 人とした場合に、現在と同じような割合で該当するとすれば、3 学年 90 人定員の 9 名程度が制度の対象となると思う。
- ・収容定員の 8 割を 3 年連続で満たさなかった場合に、この支援の対象を外れることになると、そこから先の学生は支援を受けられないということになってしまい、ますます本校への進学を拒否されることが懸念される。
- ・鶴岡市としては、万が一、支援の対象校とならなくても、市としてどの程度かの支援を行うなどの心づもりは無いのか。

幹事

- ・重い課題として捉えておきたい。

委員

- ・もし市としてある程度そういう心づもりもあるということであれば、定員を 30 名にして学生をたくさん集めるということにチャレンジしてもいいかと思うが、30 名にすればそれだけ定員割れする確率が今までより大きくなるので、対象校で無くなった場合に、もう学生に支援をしないというのでは先が全くない学校になってしまう。きちんとした市としての心づもりがあったほうがいい。

委員

- ・3 年続けて定員割れするということがあれば、定員を見直すことも検討しなければならないと

思われるが、その場合の取り扱いというのはどうなるのか、確認しておきたい。

幹事

- ・様々なデータを見ると、少子化の影響はあるだろうと思われる。
- ・一方で鶴岡准看護学院の閉校の影響も考慮し、地元で医療人材を育て、定着していただくという市の施策としての取り組みを推進しなければならない。こうしたことを踏まえて定員30人と提案している。
- ・今後少子化の影響あるいは進学状況から定員の維持が難しいと予測できる状況になれば、定員の在り方を見直して国・県に図っていくなど、しっかり見極めていきたい。

委員

- ・看護師の養成というのは、単に学校ということだけではなく、地域の保健医療の体制とも関係してくる。
- ・鶴岡市の方でも、看護師が必要だということであれば、それなりの負担を覚悟しながら養成することはあっていいのではないか。

委員

- ・酒田看護専門学校が学年定員30名で定員が充足されていないことについて、原因や、その分析などの情報を持っているか。

幹事

- ・酒田看護専門学校については、提供できる情報、できない情報もある、ということもあると思うが、なかなか情報がいただけず、把握できていない。

委員

- ・庄内の北と南で看護師育成について連携しながらやっていけたらいいと思う。

委員

- ・今後の話になるが、18歳人口は確かに減少しているが、高校生だけを募集の対象にする必要は無く、キャリアを変えるような方、すでに就職されているが、あらためて看護師を目指そうとする方も対象としていけば、ある程度の需要というのが出てくるのではないか。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で全国的にも看護師の不足というのは言われており、学生募集の在り方を、高校生中心から、もっと広く持っていければ定員30名もやっていける数字になるのではないか。

委員

- ・市としても、鶴岡准看護学院の閉校、看護師の地元定着、という課題があり、看護師確保については、最重要課題ということで、アンケート調査でも病院・診療所・福祉施設等で今後看護職員が不足するという結果もあり、市としてもこれまで以上に積極的に検討してまいりたい。

委員長

- ・高等教育修学支援新制度に該当しなくなった場合でも、市の財政出動というものについて委員

会で強く要望があったということを市としても認識していただきたい

(2) 施設整備について (資料3「基本構想(案)」の4)

- ・配置イメージについて

事務局

——— 資料説明 ———

委員

- ・この計画を見ると、シミュレーションラボというのは実習室のひとつのような、最先端の実習室のような扱いに思えたが、シミュレーションラボというのは今やかなりお金もかかるし、規模も大きくなっている。看護学校一つをラボとするぐらいの規模で運営されている。
- ・有機的なシミュレーションラボを作るのであれば、荘内看護専門学校だけでは無理だと思われる。荘内病院と一緒に使えるラボを作り、専従の人員も配置してやっていくくらいでないと、ちょっと人形を置いた程度の部屋を作るだけであれば、全くシミュレーションラボとはならないと思う。
- ・東北に、東北シミュレーション医学医療教育研究会というものがあり、東北大学、秋田大学、福島医科大学に立派なシミュレーションラボがあり、主導的な活動をしている。とくに東北大学と秋田大学では高機能のシミュレーションラボを持っており、活発に活動しているが、残念ながら山形県内にはそこまで充実したシミュレーションラボはまだ作られていない。
- ・本当に使えるシミュレーションラボを作るとなると看護学校全体を作るような経費がかかってしまうということを認識していただきたい。

委員

- ・コロナ禍で実習ができないということで、山形県の事業として、看護協会がシミュレーターを1台保管し看護師等養成所に貸し出しするという事業を今年度初めて行った。
- ・コロナ禍では、臨床実習の代替が必要とされる。どの程度にするかは別にして、荘内病院と一緒に、というのも1案だとは思いますが、コロナ禍では、実習の機会が少ない学生がいるので、シミュレーターは必要だと思う。

委員

- ・どのようなラボが必要なのか。地域のみinnで使用していく最先端の良いものを作っていただきたい。

委員長

- ・シミュレーションラボの規模や運用の仕方のあたりはどうなっているか。

事務局

- ・ご意見いただいたことから、さらに検討を進めていきたい。

委員長

- ・スペースの準備はしているが、ソフト面というか、シミュレーションラボとして使用するにはそれなりの内容が必要なのではないかという意見である。

委員

- ・コロナ禍では実習ができず、シミュレーターが大活躍した。他の大学でもそういった事例は多く報告されている。新型コロナウイルス感染症だけでなく、患者の権利意識の向上などもあり、高度な手技が看護師にも必要とされてきていることから、シミュレーターを使用した技術の習熟も必要である。
- ・せっかく作るのであれば、シミュレーターを1台寝せておくような部屋でなく、有機的に使用できるものを作っていただきたい。荘内病院と合同で作り、病院職員も自由に使えるようなもの、あるいは酒田、県内全体でも使えるようなシミュレーションラボを作っていただきたい。

委員長

- ・経費の問題はあるが、検討委員会としては、充実し、学校の特徴となるようなシミュレーションラボの要望とする。

委員

- ・現在の学生の男女比はどうなっているか。男性の比率が増えていくと思うが、ロッカーや更衣室など、男女の構成比が変わっていても対応できるような想定になっているか。

幹事

- ・現在1年生に6名の男子学生がいる。学校建設に際しては、施設面でも、不便の無いように対応していきたいと思っている。

委員

- ・普通教室、多目的教室、どちらも大事だが、定員なども考えていくときに、教育自体が、アクティブラーニングを含めて、臨機応変に授業が展開されている。単なる講義型の授業よりも総合的に新しいスタイルの授業が増えていく可能性もある。
- ・講義型の授業ができるのは当然だが、授業に応じて、グループワークができるなど、汎用性を持たせるような教室を作ることが将来的には良いと思われる。

(3) 基本構想(案)について

事務局

——— 資料説明 ———

委員

- ・新学校の特徴については、誰を対象に情報発信するのか、という点でも変わってくると思う。

委員

- ・看護師になるまでに必要な費用を大まかに調べてみた。3年間で、荘内看護専門学校は入学金と授業料で77万円。酒田看護専門学校がHPによると82万円（酒田市外居住者。酒田市内居住者は77万円）。山形市の済生館 高等看護学院は初年度経費33万円含め115万円。公立の看護専門学校はいずれもこの程度の費用。国公立の大学は4年間で約250万円。私立の看護専門学校では、三友堂看護専門学校が約300万円、厚生看護専門学校は255.6万円。私立の大学では、東北福祉大学の保健看護学科で、HP上の計算で718万円。東北文化学園大学は710万円。
- ・荘内看護専門学校は、比較的安い金額で十分な教育を受けることができるということは売りとなるし、アピールしていくといいと思う。
- ・高校生だけではなく、大学を卒業した方、一度社会人になった方にも働きかけをして学生を集めるということで学年定員30名規模の立派な学校ができるのではないかと考えている。

委員

- ・これからはオンライン・遠隔授業などをPRした方がよい。時代にあった授業をできるという所を大々的にPRしていただき、パンフレットやSNSなどでも情報発信していくのが良い。

委員

- ・どんな学生を対象にしていくのか、というのが重要。4年制の大学を志向している学生にPRしてもおそらく3年制の専門学校を受験することは無いのではないかと。
- ・首都圏の専門学校に推薦入学で行ってしまう学生がかなりいることを考えると、安い費用で、地元から通えて、首都圏と同レベル以上の教育が受けられるということのを売りにしていくべき。学生も、実習ができない中で、技術に不安を持っているのではないかとと思うが、最先端の授業だけでなく、実習について、実習先としての荘内病院、シミュレーターでの実習、実習先として医師会でも協力させていただき、多彩な学習というのも売りにしていただきたい。

委員

- ・所感であるが、定員の設定は非常に難しい。入学者の立場に立ったときに、看護師になりたいという強い気持ちを持って入る人が多い気がする。成績や経済的事情とか、さまざまな状況があって在籍している学生もいるのではないかと。
- ・卒業するときに入学金が良かった、とか、後輩にも、是非この学校は良いから入ってほしいとか、地元で働きたいという気持ちを持っていただけるような教え方ができると良い。そのためには教員や大人の側がきちんとしていくのが大事である。
- ・行政も多くの財政支援をしているので、地域の医師や看護師などと一緒になって、良い手本となって応援していく、一緒に働きたいと思っただけのような地域ぐるみの支援が、人という目線から見たときに非常に大切なのではないかと。
- ・地域活性化には若い人の声が聞こえるというのは非常に重要なので、地域とともに頑張りたい。

- ・定員の見直しは適時必要。修学支援に影響が出るようなことはあってはならないと思うし、安定した経営を行うためには、万が一のセーフティネット、定員を確保するための将来的な見通しも持たないといけない。甘んじることなく厳しく見通していく必要がある。

(4) その他

委員

- ・県の超高齢化社会におけるデジタル化の推進という方針があり、訪問看護の現場にICT機器を導入し、新たなサービスの提供としてのモデル事業があり、学生の時代からICTの技術を使いこなせるように、遠隔教育等なども行ってデジタル技術を活用した教育ができれば良い。
- ・令和3年度は、例えば訪問看護ステーションでは、タブレットを活用した情報共有といった話題も出ているので、時代にあった快適な学習環境が有効だと思う。

4. その他

- ・今後のスケジュールについて
 - ・1月29日 鶴岡市議会臨時議会終了後、議員へ審議状況の説明を行う。
 - ・基本構想案を、委員長と相談の上最終案として2月には取りまとめを行う。
 - ・議会への説明、パブリックコメントの実施などを経て3月末までには最終的な基本構想を策定

5. 閉会